



 **冷金米 初出荷！**

※ライスターミナルへの初出荷を祝し行われたセレモニーでの記念撮影

幻のじゃがいもで作る特別な
『ポテトチップスのり塩 今金男しゃく』



「今金男しゃくポテトチップス」先行予約受付中!

🌸 10月中旬以降発売 先行予約受付中 🌸

昨年もご好評を頂きました、今金男しゃくを100%原料として使用した贅沢なポテトチップスが、今年も10月中旬以降に発売されることとなりました。今回は装いも新たに、専用のスペシャルなパッケージで販売をさせて頂きま

す！
購入予約は湖池屋オンラインショップ『ポテトチップスのり塩 今金男しゃく』特設ページでお申込みいただくか、Aコープいまかね店でもご予約いただけます。
数量限定での販売となりますが、ご家族で味わって頂くのはもちろんのこと、お土産などとしても是非ご利用下さい。

昨年お召し上がり頂いたお客様の声 🍷

★甘みというか、旨みというか、ぎゅっとつまったじゃがいも。いつもののり塩が食べられなくなるくらいおいしい。

★オーソドックスなのり塩ですが、口のなかに残る男しゃくいもの旨味が半端ではない。塩味なのに甘みが残るのは、やはりでんぷんの量が違うからなのでしょうね。

★期待以上の美味しさでビックリ！後味が濃厚ですが今金男しゃくです。

実りの秋を迎えました ～9月10日稲刈り開始・9月21日新米出荷～



◀ フレコンから次々とお米が
ホッパーに投入されていきます



◀ 手塩にかけた稲を収穫する
喜びの瞬間です

9月10日、町内のトップを切って今金町稲作部会長の吉本辰也さんが稲刈りをスタートさせました。

8月30日に襲った台風10号の影響もあり一部倒伏も見られましたが、大きな被害もなく無事に収穫期を迎えた事もあり笑顔での収穫始めとなりました。

また、同月21日からはライスターミナルへの出荷が始まりました。本年出荷のトップとなったのは、中野秀勝さんと吉本辰也さん。品種はいずれも「ゆめぴりか」となりました。午前9時30分からは初出荷を祝うセレモニーが行われました。お二人には記念品が手渡され、外崎秀人町長・内ヶ島道良専務理事など多くの関係者と共に無事出荷を迎えた喜びを分かち合いました。

ホールクロップサイレージ（WCS）用稲の収穫見学会が行われました



◀ コンバイン型専用収穫機で
刈り取り、ローラーが排出されます



◀ 専用機でラッピングし、
圃場から搬出して発酵させます

9月13日、ホールクロップサイレージ（WCS）用稲の収穫見学会が本年栽培に取り組んだ佐藤弘一さんの圃場で開催され、生産者等関係者ら25名が参加しました。

WCS用稲の取り組みは、これまでより栄養価の高い粗飼料の給与により、素牛・肥育牛の飼養技術の向上と和牛経営の安定化を図ることを目的としています。

栽培が行われたのは約2haの圃場で「大地の星」を乾田直播栽培で作付けし、順調に生育した稲をコンバイン型専用収穫機で収穫しました。

道南地域では唯一の取り組みであることから、集まった関係者は作業工程等について熱心に見入っていました。新たな水田活用の方法として、今後の展望が注目されるところです。

青年部が農村ホームステイを行いました



◀ 今金男しゃくの
収穫作業を行う小原先生

今金町農協青年部が昨年度から取り組んでいる「農村ホームステイ事業」が本年は9月12、13日に行われました。今回受け入れ先の農家となったのは、宮本翼さんと向井宗征さん。高等養護学校の小原政住先生が、今金男しゃくや軟白長ネギの収穫作業等を行いました。農業への理解と交流を深めました。交流の様子はJA道青協のホームページに掲載されますので是非ご覧下さい！

(JA道青協ホームページアドレス <http://jayouth-hokkaido.jp>)

国営緊急農地再編整備事業 今金南地区2工区『地域検討会』開催



◀ 3グループに分かれ、図面を広げて検討が行われました

9月8日、八束地区農地再編協議会主催による「今金南地区2工区地域検討会」が開かれました。
この検討会は、該当地域の現在の事業要望を確認し今後のスムーズな事業推進を行う為に開かれました。当日は事前に検討された整備案をたたき台として、多くの生産者が集まりより良い基盤整備の実現に向けて質問・要望などを活発に交わしました。

今金町水田農業検討委員会が開かれました



◀ 検討結果は今金町地域
農業再生協議会に報告されます

9月12日、第2回今金町水田農業検討委員会が開かれました。この委員会は需要に合った米生産の推進を図ると共に、水田を対象とした交付金の活用を通じ、水田農業の構造改革の推進等を目的に農業者等の意見を徴収・検討するために組織されています。本年から、米政策改革も見据え委員会の組織再編が行われており、委員長には吉本辰也さん、副委員長には佐藤弘一さんが就任されました。

台風10号被害に対する 支援施策説明会が行われました



◀ たくさんの生産者が
説明会に訪れました

9月13、14日にかけて、今金町による「台風10号被害に対する支援施策説明会」が行われ、会場にはたくさんの生産者が訪れました。
説明会では、台風10号でうけた被害に対し「産業基盤災害復旧支援事業」として支援施策を講じる事、事業の要件、申請手続きの内容、注意事項などの説明がなされました。また、10月3、7日には申請受付が行われました。

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会



JAグループ北海道は、「地域から人を減らさない」強い認識のもと、担い手の確保・育成に向けてJA・連合会・中央会が一体となったサポートとして、「担い手確保・育成支援事業」を今年度より実施いたします。

本事業は農家後継者の確保、新たな人材の確保、および担い手農業者の経営課題の解決を図るために、4つのメニューを実施します。

下記の図は「農家後継者親元就農支援事業」のイメージ図です。



JA北海道信連

9月に札幌ドームで「ハッピーママフェスタ」に参加しました。

北海道若手女性農業者集団「Links」から「食と農のトークショー」と題して、農業や地元の食材の魅力を語っていただき、また、出展したブースではちよリス・グッズや新じゃが等を延べ約1600名にプレゼントし、JAバンクのPRも実施しました。



ホクレン

2016年9月12日より、生産者の皆さまに向けて「LINE@」等を利用した情報発信サービスを開始しました。営農情報・スマート農業に関する情報・イベント情報・国内外のマーケット情報等をタイムリーに発信。週に1・2回程度の発信を予定しており、スマートフォン・PCからご登録いただけます。今後、各JAへ登録方法を明記したチラシを配布させていただきます。予定です。

！登録はこちらから



JA共済連北海道

認知度アップと、幅広い方々に「ひと・いえ・くるま」の総合保障をご利用していただくため、9月1日から翌年2月15日までの期間限定で、LINEアプリ用「ひとのわぐま」スタンプ（8種類）を無料配信しています。

人の輪（絆）を大切に考えているJA共済の新キャラクターです。詳細につきましてはJA共済ホームページ又はJAの共済窓口でご確認ください。



！ダウンロードはこちらから

JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。ホームページにバックナンバーを掲載しております。是非「一読ください」。



道南 NOSAI 園芸施設共済

【台風10号被害における共済金支払額】

今金町史上最大の被害に



8月31日未明に襲った台風10号は、今金町で最大瞬間風速31.7mを記録しました。

今金町における共済金支払対象棟数298棟、支払共済金7483万円となり、平成十六年を上回る未曾有の大被害となりました。

道南NOSAI管内における台風10号被害の共済金支払額は約2億円。そのうち今金町は支払共済金の約36%を占めております。

北部支所管内の被害

北部支所管内（今金町・せたな町）で被害棟数516棟、支払共済金1億3218万円となり、北部支所過去最大の共済金の支払となりました。

現地調査のご理解に感謝

甚大な被害により「いつ調査に来るのか」という問い合わせが殺到しました。その中、組合員の皆様におかれましては格段のご理解をいただき、調査が無事終了することが出来ましたことを感謝申し上げます。

★ 今金町における台風10号被害と、平成16年度被害の比較

年 度	支 払 対 象 棟 数	支 払 共 済 金		
		特定園芸施設	施設内農作物	合 計
平成28年	298	62,240,861	12,589,973	74,830,834
平成16年	139	26,304,639	3,430,113	29,734,752
差	+159	+35,936,222	+9,159,860	+45,096,082

園芸施設共済における連絡先

北部支所 ☎ 84・5042

FAX 84・4398

今金診療所 ☎ 82・1842

FAX 82・0718

檜山農業改良普及センター檜山北部支所より営農情報10月号

()は、9月15日作況調査の平年値との遅速日数

	今後の農作物管理		今後の農作物管理
水稲	水稲 (遅3日) 今年は育苗期の高温から一転、移植後の低温により生育遅れ、茎数不足、不時出穂などが見られましたが、7月を乗り切り、7月末から8月前半が高温に推移したことで、稔実には良く登熟も順調に行われました。8月末の台風により部分的には倒伏もありましたが比較的影響が少なく、9月中旬には成熟期に達することが出来ました。 ……来年に向けては ・ まず、ほ場の乾燥化を促しましょう。 収穫作業で傷んだほ場の枕地や轍(わだち)の表面水は溝切りを行い、ほ場外に排水しましょう。ほ場が乾燥している状態で心土破碎を施工し透水性を高めましょう。 ・ 次に、稲わらの処理です。 “わら焼き”も許されない時代ですので、(できるだけ)秋鋤込みを検討して下さい。収穫後早めに鋤込み、腐熟を促すことがポイントです。尚、鋤込む場合はスタブルカルチなどによる“粗耕起”とします。ロータリ耕は水はけを悪くしますので避けましょう。 ・ 畦畔の補修も忘れずに ・ 水田の土壌診断実施を pHや燐酸及び塩基(石灰・苦土・加里)の他、ケイ酸や培養窒素の診断を行い施肥改善(土改材含む)に繋げましょう。		牧草 飼料用とうもろこし(遅2日) ・ 貯蔵粗飼料の把握 粗飼料確保量の点検、粗飼料分析を実施しましょう。 大雨や台風等により冠水や倒伏を受けた原料の場合は、サイレージの発酵品質を確認するとともに、必要に応じて給餌の際にカビ吸着剤の使用を検討してください。 ・ 石灰質資材の施用 草地は播種後年数が経つに従い、土壌の酸性化が進み、牧草の量が低下します。酸性化を防ぐために石灰質肥料を施用しましょう。施用の目安としては、2～3年毎に炭カル40kg～60kg程度を表面施用しましょう。 ・ 土壌分析をしましょう 来年の適正施肥のため、土壌分析を行いましょう。計画的に毎年、何筆か調査し、植生改善のための施肥について検討しましょう。 維持草地:土壌の表面から5cmを10カ所程度採土 更新予定草地:深さ15cmで5カ所程度採土 飼料用とうもろこし:深さ30cmで5カ所程度採土
	秋まき小麦 ・ は種について 極端な遅まきは減収要因になるため、まだ終わっていない場合は早急には種するか春まき小麦の初冬播き及び翌春は種を検討しましょう。 ・ 雪腐病の防除を行いましょう 融雪の遅いほ場や滞水しやすいほ場では、特に雪腐病の発生が懸念されます。 越冬前(根雪前)の防除や翌春の融雪剤散布等を実施しましょう。 大豆(±0日) ・ 天気を考慮し適期収穫を! ほ場の成熟期、子実水分を確認し、収穫前には汚粒防止のため、わい化病株や雑草を抜き取りましょう。 ＜コンバイン収穫の目安＞ 子実水分20%以下、茎水分40%以下。 汚粒防止のため、収穫作業は晴天の日中に行う。 豆類 ダイズシストセンチュウの被害が発生したほ場では、次の豆類作付までの間隔をあける(大豆と小豆の連作も避けましょう)、クローバ類や抵抗性品種を導入するなど、センチュウ密度を減らす対策を検討しましょう。 てんさい(早5日) ・ 集荷時期にあわせて、計画的に収穫しましょう ほ場が過湿状態で収穫を行うと、土砂の混入が多くなるので注意しましょう。 ・ 次年度に向けたほ場づくり 茎葉は、収穫後できるだけ早くすき込みましょう。茎葉をすき込むことにより、次年度作物で減肥することが可能となります。 畑作物共通 ・ 次年度の作付に向けて、土壌診断を行いましょう 収穫が終わったほ場は、土壌(15～20cm)を採取しましょう。 ・ pHの改善 作物の生育不良などは土壌の酸性化が原因の場合があります。 土壌診断値に基づき、秋のうちに炭カルなどで酸度矯正を行いましょう。 ・ 適正な施肥 ほ場における養分の蓄積状態とバランスを知り、作物にとって適正な養分状態に調整することが大切です。 堆肥を定期的に投入しているほ場は、加里過剰になっている場合があります。加里成分を抑えた肥料を施用し効率的な施肥を計画しましょう。	畜産 飼養管理 ・ 分娩前後の飼養管理 肉用牛では濃厚飼料の増し飼いや、酪農では乾乳牛を前期と後期に分けた飼料給与により分娩後の経過を改善しましょう。 酪農では乳量・乳成分に注意し、乾物摂取量の確認を行い、ボディコンディションの回復を図りましょう。 ・ 初乳の給与 自然は育や人工は育の別に関わらず、飼養環境改善(消毒や換気)を行い衛生的な環境を保つとともに、人工は育の場合は良質な初乳を、なるべく早く、遅くとも6時間以内に十分に給与しましょう。(目標は3L以上) ・ 子牛の寒さ対策は今から準備! 子牛の管理適温は13～25℃です。朝晩冷え込んできますので、牛床に敷料をたっぷり使い、汚れたら取り除き乾いたものを追加しましょう。 また、牛体に直接冷たい風が当たらないように、すきま風をふさぐ工夫をしましょう。天井の高い施設では、コンバネやシートで一部を低くします。日中は換気を良くするため、はいでおきます。	
畑作		園芸 ブロッコリー 気温が低下すると「黒腐病」の発生が多くなるので、「コサイド3000」等で予防的に防除を行いましょう。「黒腐病」にかかると、下葉の葉縁がV字に黄変し、蔓延すると花蕾にも症状が拡大します。特に、10月中旬～下旬収穫の作型で発生しやすいので注意しましょう。 だいこん・こかぶ 気温が下がる10月は、「白さび病」(ワッカ症)の発生に注意が必要です。「ハチハチ乳剤」は「白さび病」にも効果(登録)があるので、害虫と同時に防除が行えます。使用時期に注意し、適正に防除を行いましょう。 ミニトマト 気温が下がると、着色が遅くなるとともに、「裂果」の発生が増えます。土壌水分の急変や、ハウス内の過湿(特に早朝)が発生を助長します。 明け方のハウス内は過湿状態になっています。気温が低くても、朝は毎日必ずハウスを開けて「モヤ抜き」をしてください。除湿した後で、日中の温度管理(20～25℃)を行いましょう。 草勢が落ちると「うどんこ病」が発生しやすくなります。特に、昨年発生したほ場では発生しやすいので注意しましょう。「アフェットフロアブル」などで、「灰色かび病」と同時防除して予防を心がけます。多発すると防除が難しくなるので、発生初期から防除を徹底しましょう。	

檜山農業改良普及センター檜山北部支所

TEL 0137-84-5514 / FAX 0137-84-5596 / E-mail hiho-nokai-hokubu.11@pref.hokkaido.lg.jp

URL <http://www.hiyama.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

LINE@ホクレン公式アカウントスタート!

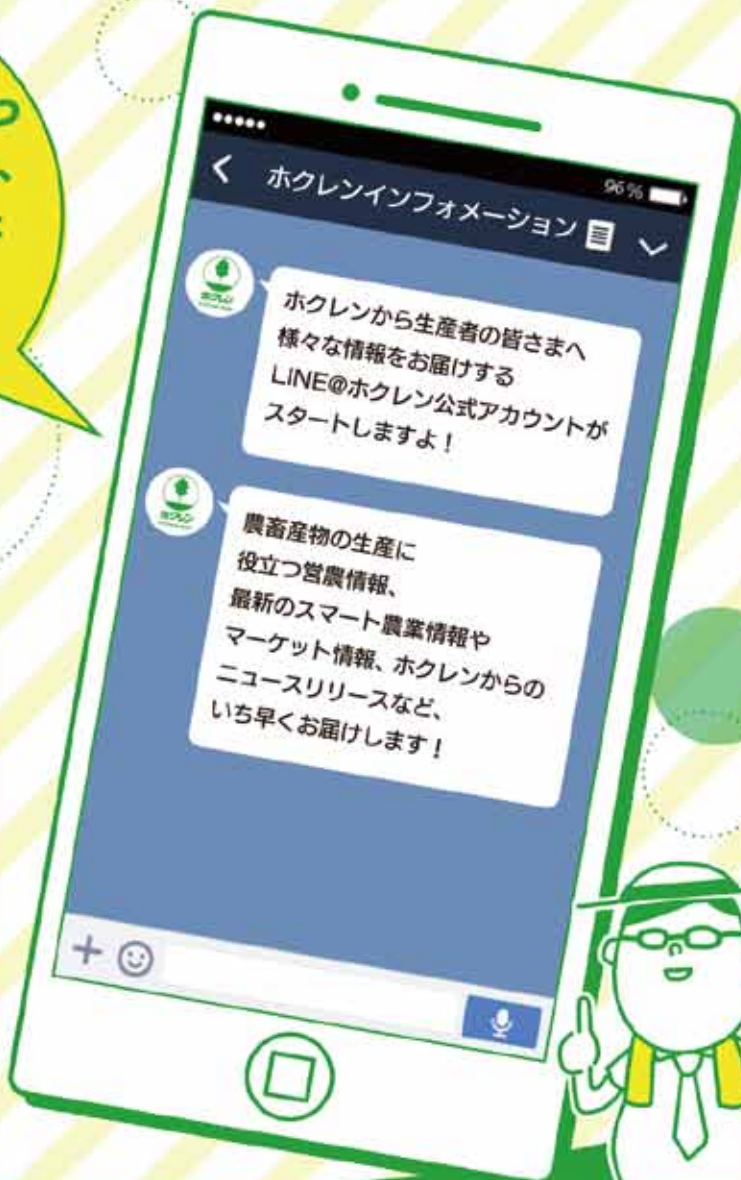
生産者向け 情報発信サービス始まる!

営農に役立つ情報を発信します!

生産者の皆さまに役立つ
マーケット最新情報や、
スマート農業も含めた
営農情報を
お届けします!

LINEアプリで
友だちに追加すると
定期的に情報が
届きます!

さらに詳しいニュースも
パソコンやスマホから閲覧可能!



登録はこちら!

またはLINEアプリの
QRコードリーダーで!



LINEアプリで
公式アカウントを検索
@hokurennews

ホクレン



メルマガも同時リリース!

パソコンやスマホでチェックできる
ニュースサイトもスタート!
メールマガジンも同時にスタートします。

登録は下記サイトからアクセス!

<https://hokuren-news.jp/mailmagazine/>

スマホを
お持ちでない方も
登録いただけます!